参考資料1

【第３期札幌市文化芸術基本計画の取組結果（概要）】（主な事業を抜粋）

ステージ１　機会の充実

①　多彩な文化芸術に親しむ機会の提供

	事業例	計画期間における取組の概要
1	PMF（パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌）	・大小様々な演奏会を開催し、世界水準の音楽を広く市民に提供したほか、多くの市民や学生たちが合唱に参加する取組（PMF30 回を記念した「PMF プレミアムコンサート」）を行った。 ・PMF 教授陣やアカデミー生が特別支援学校や病院に出向いてコンサートを開催し、普段コンサートホールに足を運ぶことが難しい方にも音楽に親しむことができる機会を適用した。 【コロナの影響】 ・R2 については開催中止、R3 についても一部プログラムを中止
2	さっぽろアートステージ	・11 月を文化芸術月間と位置付け、文化芸術団体や民間企業、学校などと連携し、美術、演劇、音楽などのイベントを集中的に開催することにより、街のいたるところで文化芸術に触れる機会を創出。 【コロナの影響】 ・R2～R4 については、一部プログラムをオンライン開催
3	札幌演劇シーズン	・優れた演劇作品の鑑賞機会を提供するとともに、新たな札幌の観光魅力資源としての活用を図るため、札幌で生まれた優れた演劇作品を約１か月間上演する「札幌演劇シーズン」を開催した。 ・令和４年度は、夏シーズンに 10 周年記念事業として「12 人の怒れる男」を会場設備を充実させて公演。当該演目は、同じ夏シーズンの上演作品で最も多くの来場者を記録した。 【コロナの影響】 ・コロナ期間中は座席数を半数程度に制限するなど感染対策を実施。
4	札幌国際芸術祭	・SIAF2024（令和６年１月 20 日～２月 25 日）年に向け、記者発表やディレクターによるトークイベントを実施する等機運醸成を行った。 ・メディアアートを通じて札幌の冬や雪を捉え直す展覧会や、SIAF2024 出展作家の冬季屋外展示の実証実験を兼ねたプレイベントを実施 ・市内の美術館等と連携して、展覧会やアート作品を分かりやすく紹介する鑑賞プログラム「SIAF ふむふむシリーズ」を令和３年度実施した。また、令和４年度は、本シリーズ内で、科学館と連携したほか、障がい者（盲・ろう）の鑑賞サポートを行う団体と共に展覧会鑑賞の在り方に関するワークショップを実施する等した。 【コロナの影響】 SIAF2020 は中止。作品やプロジェクトの構想等についてオンラインコンテンツや冊子を通じて公開。
5	サッポロ・シティ・ジャズ	・令和４年度は、夏に街角での「パークジャズライブ」を３年ぶりに有観客で実施。 ・令和２年度からは、３か年計画事業として、中高生を中心にビッグバンドやジャズコーラスを加えたセッションや、海外ジャズバンドと音楽を通じた交流を行う「ユースジャムセッション」を新たに開催。 ・令和４年度は、３年目の集大成として、海外ジャズバンドとの交流事業である「国際ユースジャズキャンプ」を実施した。なお、実施手法を検討し、ユースジャムセッションの１事業として、オンラインによるセッションを行い、海外バンドとの交流を図る企画として実施。 【コロナの影響】 R2、3 については、屋外ライブを中止し、オンラインライブに切り替えるなどの対応を実施。
6	札幌交響楽団による鑑賞機会の提供	・札幌交響楽団が行う音楽芸術普及振興事業を支援。

②　文化芸術のための施設の整備・活用等

1	札幌芸術の森	・美術、工芸、舞台芸術等の発表の場、創造の拠点として、「札幌芸術の森」の管理運営を行い、令和４年度は「PIXAR のひみつ展　いのちを生みだすサイエンス」「銀の匙 Silver Spoon 展」等の展覧会を開催したほか、陶芸や木工等の各種講習会を実施した。
2	札幌コンサートホール（Kitara）	・音楽専用ホールならではの優れた音響特性を活かし、海外・日本で活躍するトップクラスのオーケストラ等による魅力的な鑑賞事業や気軽に楽しめるオルガンワンコインコンサートなどを実施し、市民に幅広い音楽鑑賞機会を提供した。
3	札幌市教育文化会館	・大迫り・小迫り・オペラカーテンなど高度な舞台機能を有する大ホールのほか、小ホールといった舞台機構を活かし、音楽、舞踊、演劇、伝統芸能などの事業を実施し、幅広い年代の市民に多様な文化芸術に触れる機会を提供した。
4	札幌市民ギャラリー	・市民の幅広い芸術文化活動の育成を目的に、市民ギャラリーで展覧会を開催する団体と協力し、初心者や子どもでも参加できるワークショップを開催するなど、市民が気軽に文化芸術に触れる機会を提供した。
5	本郷新記念札幌彫刻美術館	・本市ゆかりの彫刻家である本郷新の作品を収蔵・展示する「本郷新記念札幌彫刻美術館」の管理運営を行い、収蔵作品による常設展示のほか、特別展や各種美術講座等を開催し、彫刻を中心とした美術作品に触れる機会を提供した。
6	札幌市民交流プラザ	・hitaru では北海道初となる多面舞台や最新の設備を活用し、オペラやバレエ等の本格的な舞台芸術の公演を行ったほか、市内の中学２年生を対象にバレエの鑑賞事業を行うなど、舞台芸術の普及・発信に努めた。 ・SCARTS では各種展示イベントの実施だけではなく、市内文化イベントの情報発信やアートコミュニケーターの育成を行った。 ・図書・情報館においては、hitaru で行う大規模な主催事業に関連する書籍を特集する等、プラザ内各施設の連携に取り組んだ。
7	さっぽろ天神山アートスタジオ	・アーティスト・イン・レジデンス拠点として、国内外のアーティストの活動を支援するとともに、アーティストと市民が交流する機会を提供した。 ・令和４年度は、地元団体との協同により天神山文化祭（9/18 開催、参加者数 1,074 人）や小中学生向けワークショップ（2/23 開催、参加者数 24 人）を実施し、アーティストと市民の交流を図った。また、国際招へいプログラム（11 月から約２か月滞在制作、海外アーティスト２組を招へい）を実施し市内の会場で成果発表をしたほか、滞在アーティスト等による展示などの実施（11 回実施、来場者計 29,051 人）により、市民が文化芸術に触れる機会を提供するとともに、本市の魅力を国内外に発信する機会を創出した。
8	文化活動練習会場学校開放事業の実施	・16 校の音楽室等 19 教室を開放し、市民の文化芸術活動の練習の場を提供した。

ステージ２　未来への布石、育成、支援

①　子どもたちの文化芸術活動の充実

	事業例	計画期間における取組
1	親子で文化芸術活動に親しむための取組	・札幌芸術の森において、令和元年度に乳幼児から親子で芸術を体験することができる「０さいからのげいじゅつのもり」を実施したほか、佐藤忠良記念子どもアトリエにおいて、親子で参加できるワークショップを実施。令和４年度は、「ちびっこ油絵」、銀の匙 Silver Spoon 展との関連企画「まんがのぺんでお絵かき」などのプログラムを行った。
2	ハロー！ミュージアム事業	・「ハロー！ミュージアム」事業では、札幌市内の小学校５年生を対象に札幌芸術の森及び本郷新記念札幌彫刻美術館での美術鑑賞活動や造形活動プログラムを行った。 ※「ハロー！ミュージアム」事業　参加学校数：191 校、参加児童数：13,675 人（R4）
3	Ｋｉｔａｒａファースト・コンサート事業	・札幌コンサートホールの指定管理者である公財）札幌市芸術文化財団に補助金を交付し、同財団で小学校６年生を対象とした Kitara ファースト・コンサートを実施。 ※参加学校数 244 校　参加児童数 16,176 人（R4）
4	子どものミュージカル体験事業	・子どものミュージカル鑑賞事業は、R2～R4 にかけて新型コロナウイルス感染症の影響で中止（その間は動画配信は実施） ・R5 は４年ぶりに「こころの劇場」実公演を予定しており、劇団四季のミュージカルにしないの小学６年生を招待予定。
5	札幌市中学校文化連盟の展示・発表支援	・令和４年度については、以下の発表が行われた。 ・第 37 回中文連演劇発表会（令和４年８月２日～４日）：市内 12 校が出演 ・第 66 回中文連美術・書道展（令和４年 10 月 26 日～30 日）：88 校の美術作品と 49 校の書道作品を一堂に展示 ・第 74 回中文連音楽会（令和４年 10 月 23 日）：市内のべ 29 校が出演
6	市民交流プラザを活用した取組	・令和４年度については、市内の中学２年生を招待する青少年バレエ鑑賞事業を、３年ぶりに劇場で実施。 演目：「ドン・キホーテ」より抜粋　「ボレロ」 参加校数：17 校　参加生徒数：1,767 人 ・札幌文化芸術交流センターでは、高校生を対象として、自然音や環境音を録音する「フィールドレコーディング」という手法を用い、人と環境を考えるワークショップ「地球をかたづける」を実施。

②　アーティスト等のステップアップ促進

1	アーティスト等に対する活動支援及び環境整備	・札幌文化芸術交流センターにおいて、チラシラックを設置し、市内文化団体が実施する催しのフライヤーを無償で配架するサービスを実施。ホームページでは、市内文化施設・展示施設等の情報、文化芸術に関するイベント情報のほか、全国の公募・助成金情報をまとめたデータベースの提供を行っており、民間活動団体等の活動周知に努めている。
2	発表の場の提供・表彰制度の実施	・本郷新記念札幌彫刻賞の受賞作品の展示や 500m美術館における美術館賞入選展、市民ボランティアによる企画展を含む、様々な作家や作品の企画展を実施 ・札幌市民芸術祭においては、特に優れた公園や作品を発表した個人・団体に対して、札幌市民芸術祭大賞・札幌市民芸術祭奨励賞を贈呈しており、令和４年度は個人・団体合わせて 42 組を表彰。
3	助成制度の在り方の検討	・令和 4 年度から、SCARTS の指定管理者である公益財団法人札幌市芸術文化財団を実施主体とした新たな助成事業「札幌文化芸術交流センターSCARTS 文化芸術振興助成金交付事業」を実施。専門的な視点から審査をして採択することで、効果的な助成制度とすることができた。また、募集に SNS を活用することなどにより、令和３年度は 16 件の応募であったのに対して、令和４年度は 56 件、令和５年度は 115 件もの応募があり、令和４年度は 16 件、令和５年度は 21 件を採択した。
4	幅広い支援の環境醸成	・札幌文化芸術交流センターにおいて、支援制度を探すアーティストの相談にスタッフが対面で応じる、対面相談サービスを提供。
5	札幌市文化芸術活動再開支援事業（R2～4）	・新型コロナウイルス感染症の影響を受けている文化芸術活動において、文化芸術に携わる方々の活動再開を支援し、市内文化芸術活動が早期に復興するよう、さらに活動の復興により、市民が文化芸術を鑑賞する機会を確保することができるよう、公演や展示を行う際の施設使用料及び練習・制作に係る会場使用料について支援金を交付。

③　文化芸術をつなぐ新たな役割の育成・支援

1	アートマネジメント機能の強化	・札幌文化芸術交流センターにおいて、ＳＣＡＲＴＳラーニングプログラムとして、アートマネジメント人材の育成に繋がる講座を提供。
2	アートマネジメントの人材育成・活動支援	・札幌文化芸術交流センターにおいて、アートコミュニケーターを募集・育成し、市民とアートとをつなぐ担い手づくりに取り組んだ。
3	アートボランティアへの支援	・PMF やｻｯﾎﾟﾛ・ｼﾃｨ・ｼﾞｬｽﾞ、札幌コンサートホールにおいて市民ボランティアを組織。 ・札幌国際芸術祭においては、アートマネジメントの専門的知識を持つ人材が SIAF 事務局のマネージャーを担い、広報を含む企画全般の調整を行うとともに、令和元年度から引き続き「SIAF 部」を運営し、レクチャーやイベントづくりを通じたアートマネージメント人材の育成プログラムを実施。
4	札幌市創造活動支援事業（R4）	・きめこまかなアーティスト支援と本市におけるアートマネージャーの育成の二つを目的にいわゆる中間支援団体を通じたアーティスト支援を行当該事業を令和４年度にモデル事業として実施。

ステージ３　文化の保存・活用

①　文化遺産・自然遺産の保存と活用

	事業例	計画期間における取組
1	（仮称）札幌博物館整備の推進	・博物館運営における集客に向けた民間活力の導入事例や開館準備期間の機運醸成取り組みなどに関する他都市の事例を調査 ・令和４年度については、チカホでイベントを実施し、多くの市民や観光客にセンターの活動周知と機運醸成を図った。
2	博物館活動センター事業の推進	・調査・研究（小金湯産クジラ化石の他標本との調査、札幌の希少植物調査、風穴地の植物調査） ・資料の収集・保存（小金湯産クジラ骨格標本（頭部）製作、アンモナイトや昆虫標本の整理・分類など） ・普及交流事業（企画展（3 回）、体験学習会や野外観察会の実施、情報誌の発行（2 回）など
3	文化財の保存と活用	・保全計画に基づく市有文化財施設の必要な改修などの保存の取組を行うとともに、文化財の保存・活用を主導する関係者で構成する「札幌市歴史文化のまちづくり推進協議会」を主体として、関連文化財群及びストーリーを活かした市内文化財の周遊促進パンフレットを作製するなど文化財の魅力発信に取り組んだ。
4	埋蔵文化財の保存と活用	・体験学習館で縄文体験メニュー（火おこし体験、土器パズル）を提供するとともに、縄文体験学習「土器づくり」、「玉づくり」の開催など、展示室の見学と合わせて、縄文文化を体感する機会を提供。 ・縄文の価値や魅力を発信できるボランティアの養成・支援を行うとともに、ボランティアの協力のもと発掘調査を実施し、現地で調査区を公開するイベント「遺跡公開デー」を開催。
5	無形文化財保存伝承	・アシㇼチェㇷ゚ノミ及び丘珠獅子舞の保存伝承事業に対し、補助を実施（新型コロナウイルスの影響により事業中止の年は実施せず）。
6	アイヌ文化の保存･継承･振興	・アイヌ文化交流センターにおいてアイヌ民族の民具や家屋等を展示するほか、音楽や踊りなどの伝統文化を体験できる学校向けのプログラムや、市民向け講座、アイヌ文化体験コーナーの運営などを実施。
7	景観資源の保全・活用	・３期計画期間中に景観重要建造物については１件（柳田家住宅旧りんご蔵）、札幌景観資産については３件（旧札幌麦酒製麦所、モエレ沼公園、旧平岸下本村農事実行組合共同撰果場）を新たに指定するとともに、所有者へのヒアリングや助成制度による維持・保全に向けた支援を実施。 ・活用促進景観資源については、現時点で８件の景観資源を登録し、情報を公開する等、景観資源を広く周知するための取組等を行った。

②　文化芸術を生かした様々な事業との連携強化

1	観光資源、科学技術と文化芸術の融合した取組の推進	・雪まつり時期には、駅前通地区沿道企業と連携し「サッポロ・パラレル・ミュージアム」を実施。札幌駅前通沿道を美術館にみたて、沿道ビルや地下歩行空間及びオンラインにて作品展示を行い、文化芸術による賑わいを創出。 ・CG をテーマとした人材育成事業を行い、初心者を含む若手市民の能力開発及びネットワーク構築を行い、完成映像は雪まつり時期を含む約２カ月の間、さっぽろ地下街の大型サイネージで放映。
2	文化芸術が持つ創造性を生かした産業活性化に向けた取組の推進	・北海道で活躍するクラフト作家が家具や陶芸、アクセサリーなどを出店する「北から暮しの工芸祭」を実施
3	文化芸術を生かした地域活動の活性化	・各区において、音楽イベントやアートイベント、伝統文化継承の取り組みなどを進め、地域を盛り上げる取組を実施。
4	文化芸術などを通じた都市間の連携による取組の推進	・浜松市と締結した「音楽文化都市交流宣言」に基づく学生音楽交流を実施。令和４年度には浜松市中学校合唱団を招聘し、交流校である札幌市立伏見中学校と交流事業を実施した他、「さっぽろスクール音楽祭」にて両校の合同合唱を披露。 ・札幌ジュニアジャズスクールでは、ジャズの種プロジェクトとして、砂川、幕別、羊蹄、広尾の４地域と合同の合宿や演奏会などの交流事業を実施。 ・Kitara ファースト・コンサートでは、さっぽろ連携中枢都市圏（札幌市を除く）からも参加しており、令和４年度には 34 校が参加。
5	教育機関等との連携	・オーケストラ、ミュージカル等本格的な文化芸術に触れる機会を提供する「こどもの文化芸術体験事業」を実施したほか、そのメニューの１つである「ハロー！ミュージアム」事業参加前には、各学校において事前学習の時間を設けて、美術館でのマナーや美術鑑賞の仕方等についての学習を実施。また、「Kitara ファースト・コンサート」事業参加前には、各学校において事前学習の時間を設けて、楽器紹介やコンサートの鑑賞マナーについての学習を実施。
6	福祉分野での文化芸術の活用	・カラフルブレインアートフェスを開催。令和４年度については、札幌駅前通地下広場にて、発達障がいのある方の作品の展示、情報コーナーの設置、過去の作品展の様子や発達障がいへの理解・普及啓発を含めた映像の投影を行った（R2、R3 は新型コロナウイルスの感染状況悪化のため中止）
7	札幌国際芸術祭	・札幌の特徴である寒冷な気候や雪が発揮できる冬季に開催する SIAF2024 に向け、企画内容等の検討等、準備を進めた。本市を代表する冬の観光イベント「さっぽろ雪まつり」や、本市創造都市施策の一つであるクリエイティブコンベンション「NoMaps」との連携を発表した。 ・令和５年２月の開催概要発表に合わせた広報プロモーションに取組み、市民はもとより国内外への発信を行った。

③　札幌の文化芸術を通じた国内外への魅力発信

1	創造都市ネットワークを活用した国内外の都市との交流・情報発信	・ユネスコ創造都市ネットワーク加盟都市で開催されたイベント・会議等において、連携事業の調整やシティプロモーション等を実施（コロナ期間中の会議等はすべてオンライン）。 ・創造都市間交流として、各都市から公募で選ばれたアーティストがペアを組み、オンラインで作品の共同制作を行うプログラムに参加するなどの取組を実施。
2	さっぽろ雪まつり	・新型コロナウイルス感染状況悪化のため、R２、R３はオンライン開催であったが、令和４年度は３年ぶりの会場開催が実現。 ・大通会場には５基の大雪像をはじめ、約 100 基の雪像が並び、夜間にはプロジェクションマッピングやライトアップなどの光の演出が行われ、多くの市民や国内外からの観光客で賑わった。2 月 4 日（土）～11 日（土）の８日間で 175 万人が来場した。 ・すすきの会場では約 60 基の芸術的な氷像が並び、こちらも多くの方々で賑わいを見せていた。 なお、新型コロナウイルスの影響により、つどーむ会場は開催見送り、大通会場は飲食コーナーを設けない形での開催となった。
3	札幌国際芸術祭【再掲】	・札幌の特徴である寒冷な気候や雪が発揮できる冬季に開催する SIAF2024 に向け、企画内容等の検討等、準備を進めた。本市を代表する冬の観光イベント「さっぽろ雪まつり」や、本市創造都市施策をともに推進しているクリエイティブコンベンション「NoMaps」との連携を発表した。 ・令和５年２月の開催概要発表に合わせた広報プロモーションに取組み、市民はもとより国内外への発信を行った。
4	さっぽろホワイトイルミネーション	・新型コロナウイルス感染状況悪化のため、R２、R３は開会式等のステージイベントや飲食ブースの設置を取りやめ、感染対策を講じた上で開催 ・令和４年度は３年ぶりに開会式を実施し、多くの方々にイルミネーション点灯の瞬間をお楽しみいただいた。また、イルミネーションの大幅リニューアルを行い、人の動きに反応して光る体験型イルミネーションなど、新たな要素も取り入れた。

ステージ４　視点の検討

①　情報発信機能の強化

	事業例	計画期間における取組
1	情報発信・共有システムの検討	・ようこそさっぽろについては、HP や Facebook 等の各種 SNS サービスを積極的に活用し、観光客のニーズに沿った幅広い観光情報を提供しているほか、地元飲食店チェーンの紹介記事などの新規コンテンツを作成することによって、国内外の観光客満足度向上と集客促進を図っている。
2	集客力の高い空間で行う積極的な情報発信	・大通情報ステーションにおいて、イベント情報を収集、発信を継続的に実施。 ・札幌文化芸術交流センターにチラシラックを設置し、市内文化団体が実施する催しのフライヤーを無償で配架するサービスを行っており、多くの市民や観光客の方に情報を提供。加えてホームページでは、市内文化施設・展示施設等の情報、文化芸術に関するイベント情報のほか、全国の公募・助成金情報をまとめたデータベースを提供し、文化芸術情報の発信に努めている。

②　情報の蓄積に向けた調査・研究

1	情報の蓄積に向けた調査・研究	・指定及び登録文化財やふるさと文化百選などのアーカイブ化を行い、インターネット上で閲覧できるシステムを公開した。

③ 将来の文化芸術活動を活性化させるための調査・研究

1	基本計画の推進・評価に向けた取組の検討	・新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけとして、市と文化芸術関係者等の間で意見交換を行うための「札幌文化芸術未来会議」を設置し、令和 2 年 11 月～令和 4 年 2 月にかけて計 10 回の会議を開催し、短期的な支援と中長期的な支援の在り方について議論を行い、前述の「札幌市創造活動支援事業」の創出につながった。
2	定期的な調査等の実施による市民ニーズの把握と活用	・文化芸術施策の推進にあたって、文化芸術の受け手や担い手である市民のニーズを把握するために毎年文化芸術意識調査を実施し、施策検討に活用してきた。